

平成22年度砺波市保育所・幼稚園のあり方懇談会（第4回）会議録（要旨）

- 1 開催日 平成22年9月16日（木）午前9時30分～午前11時20分
- 2 場所 砺波市役所 3階 大ホール
- 3 委員出席者 大石委員、太田委員、沖田委員、金子委員、小西委員、澤田委員、
四十万委員、高池委員、飛田委員
(戸成委員欠席)
- 4 市側出席者 白江教育委員会事務局長、大浦教育総務課長、川原総務課長
岡田教育委員会課長保育所長、島田教育委員会課長幼稚園長、
安地保育幼稚園係長、坪田総務課行政係長、三部総務課行政係主任
- 5 内容
 - (1) 保育所・幼稚園のあり方に対する意見について
 - ㊦ 「乳幼児の保育は家庭教育の補てんである」と以前言われた意見に賛成。
 - ㊦ 市は、ニーズがあるからと、3歳未満の子を無制限に受け入れるのではなく、子供にとってどうかという視点で入所手続きを進めて欲しい。
 - ㊦ 3歳以上の子供も長い時間の保育ではなく、保育の部分と託児の部分区分けしてはいかがか。託児の部分には相応の費用負担が必要だと思う。
 - ㊦ 市の広報に、子供1人当たりに係る経費は、保育所で100万円、幼稚園で65万円と載っていたが、それを聞いて「幼稚園に入園させると35万円も損をしている」と言う親がいて驚いた。一方で、幼稚園に通わせて自宅で子育てをしている親には市は何ら費用負担をしていないことから、何らかの補てんをすることも必要なのかと思った。
 - ㊦ 県で開かれている、家庭教育アドバイザー養成講座に参加してみると、親学びに関する指導者養成講座に参加している人も多かった。県でいくつも親を学び伝える家庭教育の推進事業をしており、今後、砺波市も積極的に取り入れればどうかと思う。
 - ㊦ 「保育に欠ける」という言葉を無くそう、というのが現在の国の方針である。世の中で子育て支援対策を整備していくが、基本的には、親が家庭で子育てをして欲しいという流れになっている。
 - ㊦ 各地区に保育所や幼稚園があり、それぞれ設置の歴史があることは以前から話しているが、全ては少子化が原因により、そのようなことを言えなくなってきた。
 - ㊦ この懇談会では、数字を示した意見とするのか、理念をもっと話し合うのか、具体的に方向をだすべきである。

(2) アンケートの結果について

- ㊦ 地域の歴史や地域性を重んじてという意見があったが、子供の数が少ない現状や、親の勤めの関係で子供を地域外に出しているという現状を考えると地域のことよりも、子供のことを考えて見直す時期が来ているのではないかと思う。
- ㊦ 地域性のことを言われるが、今後の少人数になっていくことを考えると、少人数の教育というのは難しいと思うので、あまり地域にこだわらなくても良いと思う。
- ㊦ 核家族や少子化になっており、親も子育てがわからないので、先生に相談できる環境があればいいと思うが、子育て支援センターに行きたくても性格的に行けない親もいる。そのためにも保育所があればいいと思う。
- ㊦ 配置図を見ると五鹿屋地区には保育所がない。一地区に幼稚園しかないのは保護者の需要にあっていないため、五鹿屋地区に保育所は必要ではないかと思う。
- ㊦ 子育て支援センターが県内の市町村に比べ多いのは、砺波市の特色。
- ㊦ 幼稚園は地域に根付いてしまっている施設であるので、預かり時間の延長か、こども園化が良いのではないかと思う。保育所が必要などどうしても困る人は、近隣に保育所があるのだから利用すれば良いと思う。
- ㊦ 保育所も必要だし、教育のためには幼稚園も必要。保育所の中に幼稚園の教育を盛り込む「認定こども園」を市全体で考えても良いのではないか。
- ㊦ 認定こども園など、こども園の定義がわからない。
 - ㊦ 北部こども園や太田こども園のこども園というのは愛称であり、認定こども園とは違う。認定こども園には、保育所部と幼稚園部があり、午前中は全く同じで、午後からは幼稚園部は幼稚園の保育時間が終了すると帰っていき、保育所部は預かりとなる。
- ㊦ 幼稚園の子供達も保育時間が終了した後、選択して残っている。その割合はどれくらいか。
 - ㊦ 出町幼稚園の場合、10人程度で10%強。北部こども園だと180人中60~70人が預かりとなっている。
- ㊦ 地域は所在している施設を応援するのが理想だと思う。
- ㊦ 今の施設のまま、保育時間や教育面、経済面で、各園や所によって、もっと特色は出せないのか、それは難しいことなのか。親のニーズに合わせて特色を出せば、親は遠くても預ける。親は保育所や幼稚園の基本理念を知りたいのである。
- ㊦ 新しい保育指針では、保育所の所長が責任を持ってその特色を出すことを言っている。従来どおりの考えでは通用しないが、地域に根ざすことに大変な関心を持っている。
- ㊦ 地域の規模はどの規模で考えるのが適当なのか。校区単位が適切なのか。

もし、校区で考えると小規模となってしまう施設もあるのか。

㊦ 前回資料3「保育所・幼稚園の流入出について」の居住児童数を見ると、小規模である園は、少人数の居住児童数だと言える。

小学校のクラス編成に支障が出るということまでは言えないと思う。

●㊦ 施設の今後のあり方の検討を重ね、方向性を打ち出した南砺市の検討の結果について教えて欲しい。

㊦ 保育所の統合の理由は、施設の老朽化と、人数の格差の問題があったので検討された。答申としては、①目指すべき保育 ②今後の保育園の運営について 出されており、1施設の子供の数は150～200人とか、旧町村地区でいくつの保育園が適当かということがその中身として挙げられている。